

うまい!

# 岩船米づくり情報 No. 3

平成 28 年 4 月  
岩船農業振興協議会作物部会  
村上農業普及指導センター  
JA にいがた 岩船

## 好天日田植えと保温的水管理で初期生育促進

### — 重点事項 —

- ◎ コシヒカリは5月10日頃以降の好天日に田植えを行う。
- ◎ 活着までは保温的深水管理、その後は浅水管理で分げつ発生を促進する。
- ◎ 除草剤の適正使用に努め、薬害の発生を防止する。

### 1 適期田植え ～好天日田植え・大苗厳禁～

- 5月の気温は、平年並または高くなる確率が高い予報がでていますが、数日の周期で変動するのが一般的です。風の少ない、晴れた日の田植えがベストです。
- 連休前半の田植えは出穂期が早くなり、高温登熟となりやすいことから、乳心白粒の多発生による品質・食味の低下を招きます。
- また早植えは過剰生育となりやすく、除く青未熟粒（充実度不足）による品質低下を招きます。



品質・食味の高い「岩船米」を生産するため、**早生品種は5月5日頃以降、コシヒカリは5月10日頃以降の好天日に田植え**を行いましょう

- 密植・大苗で植えると、細い茎が多くなり、倒伏しやすくなるほか、ヤセ米や乳心白粒が増加します。
- 適正な植え付けで質の良い茎が確保できると、質の良い粳が多くなり、登熟も高まり品質が向上します。



**1株 3～4本植え**とし、コシヒカリの栽植密度は**50～60株/坪**、早生品種では**60～70株/坪**を目安に、ほ場条件に応じて植いましょう

- ①田植えの4～5日前に箱当たりチッソ成分1～2gの弁当肥を施用し、活着・初期生育を促進しまししょう。
- ②昨年イネミズゾウムシ等の害虫の被害が多かったほ場では、殺虫剤を箱処理しまししょう。



### 2 田植え後の水管理 ～活着促進・初期生育促進のポイント～

- 良質米を生産するためには、スタートダッシュを良くし、早期に良質茎を確保することが重要です。そのためには、この時期にはまだ冷たい用水を、いかに水温を上げた状態にして、稲を管理できるかにかかってきます。
- 田んぼの水温を上げるため「早朝のかん水と日中の止め水」を励行しまししょう。

#### ☆ 植え傷みを防止し、初期生育を促進するためには？

- ① かん水は早朝に行い、日中は止め水として水温上昇と保温に努める。
- ② 活着までの間は、やや深め（3～4 cm）の水管理で苗を保護する。
- ③ 活着後は、浅水管理（2～3 cm）で水温上昇を図り、分げつの発生を促進する
- ④ 低温・強風時は、一時的に深水にして保温（苗の保護）する。
- ⑤ ワキの発生が見られたら、夜間落水でガス抜き（早朝かん水）をする。

### 3 雑草防除 ～ヒエの生長速度は速い～

○ほ場条件・対象雑草に合った除草剤を選び、注意書き（使用時期、使用量、使用方法など）を良く読んで、正しく使いましょう。

☆ ヒエは田植え後5日（代かき後、1週間程度）で1葉になります。

①「移植後〇〇日まで」「ノビエの〇.〇葉期まで」と記載されている場合は、代かき後日数を考慮して、除草剤散布を遅れないように注意しましょう。

ヒエの葉齢到達日（田植え後）

ヒエ葉齢	田植後日数	調査方法
1.0 葉期	4～5 日	調査場所：長岡市 代かき後3日で田 植えた場合
2.0 葉期	7～10 日	
2.5 葉期	10～13 日	
3.0 葉期	13～16 日	

気温が高いとノビエの生長も早まります。散布遅れにならないよう注意しましょう！



② 除草剤の種類に応じた散布時の水深を十分に確保しましょう。（特にフロアブル剤やジャンボ剤等は深水）。

### 4 いもち病の“伝染源”を無くしましょう！ ～予防が重要～

○いもち病多発生地（従来コシヒカリの頃、多発生の地域）や前年多発生したほ場では、コシヒカリ BL を含む全品種で育苗箱施用剤による葉いもち防除を行いましょ。

○わたぼうし等のいもち病抵抗性が弱い品種は、必ず育苗箱施用剤を使用しましょ。

○ほ場に放置した補植苗は、葉いもちの伝染源となるので、速やかに除去しましょ。

### 5 用水更新（夜間落水）で根の健全化を！ ～ワキ防止対策～

○稲わらを舂すき込みしたほ場などでは、気温の上昇に伴いワキ（生わら等の分解により発生する有害なガス）が発生し、根腐れや生育停滞を起こします。

○用水の更新（夜間落水）によりガス抜きを行い、根の健全化に努めましょ。

ワキの発生程度とその対策（昭 55、新潟農試）

ワキの程度	ワキの発生程度	水稻生育への影響	対策
			6月上旬まで
少	水田に足を踏み込むと僅かに気泡の発生がみられる。	なし	—
中	水田に足を踏み込むと気泡の発生が多い。	根の活力低下	用水の更新（夜間落水）
多	水田に足を踏み込むと盛んに気泡を発生する。	根張り不良	用水の更新を繰り返す
甚	晴天時自然に気泡を発生し、音が聞こえる。また水田を歩くと著しく気泡を発生する。	根の伸長阻害 地上部黄化	間断かん水

注目の話！

**今年は暑い夏の可能性が高い!!?**

気象庁のエルニーニョ監視速報（No.283）によると、2014 年夏に発生したエルニーニョ現象は、今年の夏のはじめには終息し、その後、平常の状態が続く可能性もあるが、夏の間にはラニーニャ現象が発生する可能性の方がより高いとされています。

夏にラニーニャ現象が発生すると**暑い夏になる可能性が高く**、良質米を生産するためには、**過剰生育防止**や**後期栄養の充実**が特に重要になってきます。